

協同のひろば

連載企画 私の職場の「協同労働」

東京西部事業所青山霊園現場から

矢 吹 美 樹（センター事業団）

若者が行き交うにぎやかな都心の真中に、そこだけ時間がゆっくりと流れるような静かな空間「都立青山霊園」がある。その広大な緑地を守るためになくてはならない下支えの仕事を、黙々と、しかし楽しくやりつづける東京西部事業所の組合員たち。その中には「協同労働」の実際の姿があった。

東京の緑地を守る組合員たち

カラス、ホームレス、花見宴会のゴミ...

東京都港区青山。都心の真中に、23区内の都営霊園では最大級の墓地「青山霊園」がある。広さ27万㎡。墓地とはいえ、霊園を南北に貫く車道には桜並木が続き、桜の名所としてお花見でにぎわうような、都心では貴重な緑地でもある。また、尾崎紅葉や志賀直哉などの文豪や犬養毅などの歴代の政治家たち、中江兆民などの自由民権運動に参加した人たちがここに眠っている。

東京都から委託された霊園内共有部分の清掃業務を行っているのが、東京西部事業所の5人の男性組合員だ。年末年始を除く毎日、2～4人の組合員がローテーションを組んで、午前8時～午後4時、十数ヶ所に分けられた区画の通

路を一つ一つ順に清掃していく。出されたゴミを集積所に集め、整理も行う。事業高は年間1600万円。

ここ数年、頭を悩ませているのが、「カラス」。昨年は、墓参の人をくちばしで攻撃し、顔に怪我をさせた。早朝から鳴くカラスの声に近隣の住民から苦情が寄せられてもいる。管理事務所としても「カラス対策」をおこなっているそうだが、なかなか有効な方法がない。近くにある「神宮」の森とカラスが行き来をしているので、数もなかなか減らない。多いときでは、500羽はいるのではないかと言う。

現場責任者の石井昌三（60歳）さんは「お彼岸などには、おそなえを狙ってカラスが増え、食い散らかすんです。ゴミ入れのかごの間からくちばしでえさを引っ張り出して、食べ終わると空からゴミを落とすので、ゴミが散乱して大変です」。「産卵の時期は、空が真っ黒になるくらい増えるね。子を守るために、母カラスは気も立っているから、人を攻撃するんだよ。僕も、後頭部を狙われて、カラスに帽子を取られたことがあります」と組合員の小津さん。

また、増えるホームレスの人たちが持ちこむダンボールや食べ殻などによる汚れも頭が痛いという。「公園なんかと違って、ここは一宿一飯の場所なんです。定住するつもりがないから、持

ちこんだダンボールや食べ殻を散らかしたまま移動していくんです。風を避けられるところなど、一泊する場所はだいたい決まった場所なので、その日の清掃区画に入っていなくても、そういうところは重点的に見てまわらないとね」と石井さんは言う。さらに「ホームレス同士のケンカや霊園内での自殺者も多くなったね。この間なんか殺人事件もあって、刑事の聞き込みまでされちゃったよ」とも。

季節ごとの清掃の大変さがある。

花見の季節には、霊園内で宴会をしたあとのゴミを、緊急体制を組んで、手作業で分別し整理する。その量は、4トラック3台にもなるという。

夏。暑い中、やぶ蚊に刺されないよう蚊取り線香を腰にさげ、長袖で作業する。起伏のある霊園のなかを、山のように積まれたりヤカーをひっぱる。

秋から冬は、掃いても掃いても、じゅうたんのようには落ち葉が積もる。北風の中、通路の間をていねいに落ち葉を掻き出し、集積所へ運ぶ。

その他にも、墓参に来た人が「邪魔になるから」とお墓の周りの樹木の枝を折ってしまい、それらを放置したまま帰って行くことも少なくない。放置された枝木を集め、ゴミ集積所へ運び、見苦しくないよう整理するのも仕事のひとつになっている。多いときには、4トラックが2台で運んで行く。

石屋さん造園業者にも声をかけて

そんなきつい仕事だが、「仕事をやってるときが、一番楽しいよ」（太田和宏さん・64歳）、「みんなで協力し合ってやれるから楽しいし、それが健康にもいいね」（江崎春治さん・75歳）、「健康を考えながら、楽しくやってるよ」（小沢興治さん・58歳）など、みんなが声をそろえて楽しいと言う。

取材に行った日、控え室のテーブルの上に「カラオケ忘年会 主催 青山カラオケアカデミック協会 理事長江崎春治」というチラシが置いてあった。「江崎さんが理事長で、こんな協会があるんですか」と聞いてみると、「こうやって面白がってるだけだよ。忘年会はホントにやるけど。何でもないことでも、こうやって楽しんでやるんだよ。退職した人にも声をかけてるよ」と石井さんは大笑いしながら答えた。「霊園に出入りしている石屋さんとか造園業者の人とか花屋さんとかにも呼びかけて、こういう交流会をみんなで作るんだよ。管理事務所の職員にも声をかけてね。前の管理事務所長が異動の時なんか、自分たちが送別会を開いたんだよ。そうやって仕事は楽しくやるもの。それに、日常的に交流しておくことで、自分たちの仕事もやりやすくなるんだ」とも。

広い霊園の中、どこが汚れているのか日々把握することは容易なことではない。毎日の計画に沿った区画の清掃も、やりきらなければならない。出入りしている業者の人が「あそこ、汚れたよ」と持ってきてくれる情報は、霊園内をきれいに維持していく上でとても貴重なものだ。逆に、墓参にきている人の「枝が邪魔だから、剪定して欲しい」という声を聞けば、組合員が造園業者や管理事務所にその情報を持っていく。そうすれば、結果的には、墓参の人の枝折りを防ぎ、霊園をきれいに維持することにつながっていく。日常的な交流で信頼関係をつくることは、とても大切なことだと言うのだ。しかも、それを楽しくやるのが。

さらに、小津さんは言う。「管理事務所が地域の人むけに開催する『樹液の流れる音を聞こう』の集いとかにも参加するよ。地域の人と一緒に、幹に聴診器当てて。この間は近所の保育園の子どもたちが、『やきいも大会をするから落ち葉を分けてください』って来たから、一緒に落ち

今が最高水準ですね

大熊課長補佐 この時期の落葉もすごいんです。事業団の方は、タバコの投げ捨てなどで「落ち葉が燃えて火事にでもなったら大変」と、通路の奥のほうまで掻き出してくださってますね。中山所長 落葉のじゅうたんみたいな状態だからね。園内を時々回るんですが、いつ見ても几帳面なぐらいやってくださっていますよ。告別式の直前には青山葬儀所の清掃もやって頂いています。通夜など待った無しなんです、かなり広いのです、送り出す遺族の方の気持ちを考えればきれいにしておきたいですからね。

大熊課長補佐 この間も、ゴミ箱の近くにお墓がある家族から「ゴミとの距離があまりに近すぎるから、ゴミ箱をちょっと移動させてくれないか」と声をかけられたらしいんです。かなり重いものなんです、みなさんでリヤカーを利用して移動させてくれたそうなんです。私どもも喜んだんです

が、利用者の方も「今まで我慢してたんだけど、すぐに実行してくれた」と喜んでくださっていました。一般のもうけを追求する業者だったら、こうはいかないと思いますよ。今が最高水準ですね。これを維持していくのは大変だと思いますが、よろしくお願いします。

(センター事業団「月間情報誌」より)



2001.1.3 「ワーカーズプケヤキ」の日報から

年末年始も休みなく働く私たちホームヘルパー。

1月1日に4年間関わった利用者さんが昇天。病院に入院することを拒否。しかし、静かな穏やか死でした。

昨年12/29に3週間ぶりに休みをとることができ、2年ぶりに墓参りに行った。墓地は青山霊園。年末の墓地は静かで、花屋さんもまだ店を開けたばかり。花と線香を買って墓を探す。一発でわからず、少しウロウロしてしまった。(道路の番号を忘れてしまった為)どこを歩いても実にきれいで、落ち葉もない。樹木もきれいに剪定されている。

家に帰って、母に報告。「きれいになっていたけど、正月がくるからかね」と話し合う。

そして、今日、月間情報誌をみて、びっくりした。私の仲間たちが努力していたんだーと。すぐ母親にも見せた。「あんなに広いところを、よく少ない人数でやってるね。大変なことだね」と。

墓参りに行く人たちも、気持ちよくお参りができることでしょう。

青山霊園の仲間たち、ありがとう！！

矢吹さん、これからも良い励みになる情報誌をつくってね！！

(H.N)